

インド洋大津波支援国際シンポジウム

# 災害時にむけて大学は何をなすべきか ～責務と役割～

主催：学校法人立命館 後援：京都府、京都府教育委員会、京都市、京都市教育委員会

**基調講演**

2005年12月8日(木) 10:00 (9:30 開場)

## 「人道は人情を越えられるか」

講師：近衛 忠輝氏（日本赤十字社社長）

## セッション&特別セッション

セッション  
2005年12月8日(木) 13:00 17:40  
9日(金) 9:15 12:30

- I 学校や大学が構成員や地域に対してなすべきこと
- II 災害の多面性と復興援助の在り方
- III 学術教育機関として取り組むべきこと

### 特別セッション

被災国大学の取り組み - 学生ボランティア活動

歴史的遺産の防災

立命館学園の取り組み - 学生ボランティア活動と学校再建支援活動

場所：立命館大学 衣笠キャンパス 創思館カンファレンスホール（京都市北区等持院北町 56-1）  
学内に駐車場はございませんので、公共交通機関をご利用願います。

使用言語：日本語 及び 英語（同時通訳あり）

定員：200名

参加費：無料

参加申込方法：氏名、住所、TEL、E-mail、所属をご記入の上、8日午前、8日午後、9日の参加希望を  
E-mail: [tsunamis@st.ritsumeai.ac.jp](mailto:tsunamis@st.ritsumeai.ac.jp)、または、Fax:075-465-8160 にてお申し込み下さい。

HP: <http://www.ritsumeai.ac.jp/acd/in/cger/index.html>

問い合わせ先：立命館大学国際課 E-mail: [tsunamis@st.ritsumeai.ac.jp](mailto:tsunamis@st.ritsumeai.ac.jp) TEL: 075 - 465 - 8230



## 開催趣旨

災害への対応は、発生する前から発生直後、そして中長期的な復興対応という大きく3つの段階にわたることができます。大学は、教育・研究機関として、いずれの段階にも対応し、広く社会に貢献する使命を帯びています。安心・安全な国づくりのために、大学がすべきこと、その役割はますます重要なものになっています。

大学は国内外の災害復興に対する学術的貢献や政策提案、ボランティア活動の人材輩出に至る様々な機能をもつ拠点です。他方、大学のキャンパスは学生・教職員が日常的に教育研究に携わり密集度が高い一方で、災害発生時には地域住民の避難場所にもなる公共の場ともいえます。

このような認識のもと、本学園はインド洋大津波災害支援に対して長期的に取り組むことを表明しました。今回の国際シンポジウムでは、災害に遭った海外の大学や、防災・復興に取り組む国内外の機関のご協力を得て、教育機関がもつべき指針、大学が取り組むべき諸課題について、3つのセッションと3つの特別セッションを通じて多面的に検討します。



## 各セッションのテーマと概要

### セッション 「学校や大学が構成員や地域に対してなすべきこと」

多くの人員をかかえる大学においては、災害発生時には学生・教職員の安全確保及び安否確認への対応が緊急に求められます。また、地域社会にとっては公共の避難場所として、周辺住民の安全確保に寄与することが期待されています。災害発生時の緊急対応のあり方、また非常事態に備えた事前の危機管理として日常から整えておくべき体制、防災教育などのあり方、さらに、被災者に対するケア対応等、事前及び事後の様々な危機管理と対応が必要になります。本セッションでは、阪神淡路大震災を経験した被災大学関係者や海外の専門家を交えて議論を行い、国内や海外の大学・教育機関にも応用できる危機管理と災害対応のあり方を検討します。

### セッション 「災害の多面性と復興援助の在り方」

世界の災害は自然災害に留まらず、民族紛争や戦争など人災と重なる、いわゆる「複合災害」の様相を帯びています。中立的な立場にある学校という存在が、「複合災害」に対してどのような備えをするべきか、復興援助のあり方について検討します。また、災害初期における緊急援助と、中長期におよぶ復興援助の効果的な実施などについて考察し、各段階において必要な資金・資材・人材の集約・配置の方法などについて検討します。

### セッション 「学術教育機関として取り組むべきこと」

近年、災害やそれからの復興支援については、私たち人間や社会の在り方に関わる視点を深く考慮しなければならないという認識が高まっています。それだけに自然科学分野から人文・社会科学に至る多種多様な専門分野と人材を擁する大学は、教育・研究機関として叡智を結集し、文理融合的にこれらの課題にアプローチする必要があります。また、次世代を担う人材を育てる責務があります。本セッションでは、セッションの内容もふまえた上で、大学ならではの可能性や取り組むべき課題について、国際機関、行政、民間企業のそれぞれの立場から考察・議論をします。

### 特別セッション 「被災国大学の取り組み - 学生ボランティア活動」

多数の若者から構成されている大学では、学生が被災支援において大きな役割を果たす可能性は高いといえます。インド洋大津波の被災大学は、どのような学生ボランティア活動を行い、また教職員とどのような連携をとったのかを報告していただき、そこから明らかとなった課題、今後のボランティア組織のあり方等を明らかにします。

### 特別セッション 「歴史的遺産の防災」

京都は世界有数の歴史的文化的遺産の集積地です。その京都において、まだ端緒についたばかりの歴史的遺産の防災に対する取り組みを報告します。あわせて、海外における歴史的遺産の防災への取り組みを紹介し、今後の展望を行います。

### 特別セッション 「立命館学園の取組み - 学生ボランティア活動と学校再建支援活動」

立命館では以前より南海地震学生防災ネットワーク(SNDR)、Tutors for International Students Assembly(TISA)等、学生のボランティア活動が盛んである。津波災害の発生直後には、「愛の波」や「cross over sea」など学生ボランティア組織が新たに結成され、活発な支援活動が繰り広げられています。本学園も学生の活動を全面的にサポートし、被災地域に対する支援を実施しています。このセッションでは、学生の活動や被災地の学校再建や人材育成支援に対する本学園の取り組みを紹介します。



# プログラム

12/8  
(木)  
(Thu)

## <午前>

10:00- 11:30 開会の挨拶

**基調講演「人道は人情を越えられるか」**

近衛忠輝氏 (日本赤十字社社長)

## <午後>

13:00 14:30 **セッションI「学校や大学が構成員や地域に対してなすべきこと」**

議長：片山恒雄氏 (防災科学技術研究所理事長)

パネリスト：高田至郎氏 (神戸大学工学部教授)

宮原浩二郎氏 (関西学院大学災害復興制度研究所所長)

クリストファー・ロジャン氏 (米国 Applied Technology Council, Executive Director)

ディスカッサント：シャクアラ大学 (インドネシア・アチェ州)

14:45 15:55 **特別セッション「被災国大学の取り組み - 学生ボランティア活動」**

司会：リム・ボン氏 (立命館大学産業社会学部教授)

報告者：被災国各大学関係者

ダッカ大学 (バングラデシュ)、デリー大学 (インド)

ブネ大学 (インド)、チュラロンコン大学 (タイ)

タマサート大学 (タイ)、ガジャマダ大学 (インドネシア)

モラツワ大学 (スリランカ)

16:10 17:40 **セッションII「災害の多面性と復興援助の在り方」**

議長：東浦洋氏 (日本赤十字社 国際部長)

パネリスト：西川智氏 (内閣府 防災担当参事官)

カタリン・デミター氏 (世界銀行研究所 上級都市管理専門官)

ファウド・ベンディメラド氏 (大都市地震災害軽減国際学術機構(EMI)

事務局長 / 神戸大学都市安全研究センター客員教授)

12/9  
(金)  
(Fri)

## <午前>

9:15 10:00 **特別セッション「歴史的遺産の防災」**

司会：山崎正史氏 (立命館大学理工学部環境都市系・建築都市デザイン学科)

益田兼房氏 (立命館大学 COE 推進機構教授)

報告者：ジャワハラル・ネルー大学 (インド)、アンダラス大学 (インドネシア)

10:15 11:45 **セッションIII「学術教育機関として取り組むべきこと」**

議長：北本政行氏 (アジア防災センター所長)

パネリスト：バドゥイ・ルーバン氏 (ユネスコパリ本部 自然科学部災害軽減課チーフ)

野田順康氏 (国土交通省 国土計画局総合計画課長)

森 信之氏 (松下電器産業株式会社 部長)

11:45 12:20 **特別セッション「立命館学園の取組み - 学生ボランティア活動と学校  
再建支援活動」**

コーディネータ：吉川 忠寛氏 (防災都市計画研究所 計画部長)

報告者：立命館アジア太平洋大学 愛の波 (学生ボランティア団体)

小学校再建プロジェクト学生実行委員会

12:20 12:30 **総括まとめ**

土岐憲三 (立命館総長顧問、理工学部教授)

閉会の挨拶

## アクセス 立命館大学 衣笠キャンパス



京都市北区等持院北町 56-1  
〒603-8577

TEL : 075-465-1111 (代表)

<http://www.ritsumeai.ac.jp/>

### ■JR・近鉄京都駅

市バス 50/快速 205 にて (約 35 分) 「立命館大学前 (終点)」下車

市バス 205 にて約 35 分、「衣笠校前」下車、徒歩 10 分

### ■JR円町駅

市バス快速 202/快速 205 にて (約 10 分) 「立命館大学前 (終点)」下車

市バス 205 にて約 10 分、「衣笠校前」下車、徒歩 10 分

### ■阪急電車西院駅

市バス快速 202/快速 205 にて (約 20 分) 「立命館大学前 (終点)」下車

市バス 205 にて約 20 分、「衣笠校前」下車、徒歩 10 分

### ■阪急電車河原町駅 (四条河原町)

市バス 12/51 にて (約 40 分) 「立命館大学前 (終点)」下車

### ■京阪電車三条駅

市バス 15/59 にて (約 30 分・市バス 15 は終点) 「立命館大学前」下車

### ■京福電車等持院駅

徒歩 10 分